

史跡武蔵国分寺跡の保存整備

保存整備への道のり

昭和31・33年の調査で、武蔵国分寺が全国でも最大規模を有することが明らかになってきたころ、^{こくぶん}国分寺の遺跡地で起こった問題は、遺跡の保存運動のきっかけとなりました。この問題は、昭和38年(1963)後半から、指定史跡地内の^{にじ}尼寺跡推定地に無許可で分譲住宅が立ち並び、^{こんどう きんだん}尼寺の金堂基壇が削り取られてしまったことに端を発します。削られてしまった遺構は二度と元には戻らないので、状況は深刻なものでした。国分寺町(市)は、石田茂作を顧問とし、^{たきぐちひろし}滝口宏(早稲田大学教授)を中心に^{くぼつねはる}久保常晴(立正大学教授)、^{ないとうまさつね}内藤政恒(東京薬科大学教授)による調査団を組織し、昭和39年(1964)3月から緊急的な^{にぼう}尼坊の発掘調査を行うことでこの問題に対応しました。調査はその後、^{そうじ}国分僧寺も含めて断続的に昭和46年(1971)まで実施されました。

これによって、武蔵国分寺跡の全体像が見えはじめたのもつかの間、昭和48年(1973)には市立第四中学校の建設問題が起こります。当時の学校建設予定地周辺は、雑木林や畑でしたが、僧寺跡に近いこともあって遺構が残っている可能性が高かったのです。これに対しては、大きな保存運動が起こり、「文化財の保護」という考えが広まるようになりました。建設前の少ない時間ではありましたが、発掘調査が行われ、武蔵国分寺に関連する^{ほつたてばらたてものあと}掘立柱建物跡や^{たてあなじゆうきよあと}竪穴住居跡が発見され、^{かじこうぼうあと}鍛冶工房跡もあることから、寺を^{えいげん}営繕する施設(修理院)と考えられました。東京都指定文化財の「^{りよくゆう かもんざら}武蔵国分寺跡出土の緑釉花文皿」はこの^{たてあなじゆうきよ}竪穴住居跡群のひとつから見つかっています。そして昭和49年(1974)、武蔵国分寺跡の保存基本方針が定まり、「武蔵国分寺遺跡調査会」(のちに国分寺市遺跡調査会)が発足し、寺域の確認を目的とした調査が開始されました。



武蔵国分寺跡出土の^{りよくゆう かもんざら}緑釉花文皿〈東京都指定有形文化財〉

口径15.7cm、器高2.65cmの高台付きの小型皿で、全体にうぐいす色の^{うわぐすり}釉がかけられています。中央には^{だいにちによらい}大日如来の種子「ヴァン」が梵字で表され、周囲には、花の文様が描かれています。10世紀中頃に現在の愛知県瀬戸市付近で生産されたもので、武蔵国分寺での^{きと}仏教儀礼に使用されたものと考えられます。



住所：国分寺市西元町3-10-7
(市立第四中学校体育館内)



国分寺市文化財資料展示室

市では、やむを得ずとはいえ貴重な寺域内に学校を建てたことを踏まえ、昭和54年(1979)、第四中学校の体育館内に「文化財資料展示室」を開設しました。展示室では第四中学校内から出土した土器・瓦・鉄製品を中心に展示しています。また、国分尼寺跡を紹介する映像の放映や、^{すみたしやういち}住田正一古瓦コレクションのうち、東海道・東山道諸国の瓦を展示しています。

史跡保存整備の概要

年号 (西暦)	調査	保存管理	公有地化	
明治 36 年 (1903)	重田定一、柴田常恵による実踏調査			
大正 11 年 (1922)	東京府嘱託稲村坦元らによる寺跡全般の調査	・10月12日「史蹟名勝天然紀念物保存法」により国の史跡指定を受ける		
昭和 31・33 年 (1956・1958)	石田茂作を委員長とする「日本考古学協会仏教遺跡調査特別委員会」による調査			
昭和 39～44 年 (1964～69)	国分寺町(市)の組織した調査団による遺跡保護・保全のための確認調査(尼寺跡・僧寺跡・区画溝等) (昭和 39・40・41・44 年〈全 5 次 計 129 日〉)			
昭和 40 年～ (1965～)			公有地化 事業開始	
昭和 47～49 年 (1972～74)		・環境整備第 1 期工事として僧寺中枢部を対象に工事実施(昭和47～49)		
昭和 49～60 年 (1974)				
昭和 51 年 (1976)		・史跡追加指定(東僧坊)		
昭和 54 年 (1979)	国分寺市教育委員会による第 1 期寺域確認調査	・史跡追加指定(尼寺南東部)		
昭和 55 年 (1980)		・国分寺市史跡武蔵国分寺跡整備計画策定委員会設置		
昭和 57 年 (1982)		・史跡追加指定(僧寺南門西側)		
昭和 61 年～ (1986～)				
昭和62・63年 (1987・88)	国分寺市教育委員会による第 2 期史跡整備に先行する確認調査	・国指定史跡保存管理計画 策定		
平成元年 (1989)		・史跡武蔵国分寺跡整備基本構想 策定		
平成 2 年 (1990)		・史跡武蔵国分寺跡整備基本計画 策定		
平成 4 年 (1992)		・(仮称)郷土博物館基本構想 策定		
平成 4～7 年 (1992～1995)	尼寺地区 事前遺構確認調査			
平成 10 年 (1998)		・史跡追加指定(僧寺中門西方)	尼寺地区 買収完了	
平成 9～14 年 (1997～2002)		・尼寺地区 整備実施設計・工事		
平成 14 年 (2002)		・僧寺地区 整備基本計画見直し 策定 ・史跡追加指定(僧寺北東地域)		
平成 15～年 (2003～)		・市立歴史公園 武蔵国分尼寺跡開園 ・市立歴史公園 都史跡東山道武蔵路開園		
平成 19 年 (2007)		・史跡武蔵国分寺跡周辺地区まちづくり計画決定		
平成 20 年 (2008)		・市立歴史公園 史跡武蔵国分寺跡(僧寺北東地域)開園		
平成 21 年 (2009)		・史跡武蔵国分寺跡(僧寺地区)整備実施計画 策定 ・市立歴史公園 史跡武蔵国分寺跡(国分寺崖線下地域)開園 【おたかの道湧水園、武蔵国分寺跡資料館、史跡の駅】		
平成 22 年 (2010)	僧寺地区 事前遺構確認調査(継続中)	・史跡追加指定(東山道武蔵路跡) 史跡名称が「武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡」に変更 ・僧寺地区 第一期整備〔中枢地区〕基本設計		
平成 23 年 (2011)		・市立歴史公園 史跡東山道武蔵路(武蔵国分寺跡北方地区)開園 ・僧寺地区 第一期整備〔中枢地区〕工事着手 ※平成28年3月 継続中		
平成 24 年 (2012)		・国指定史跡武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡保存管理計画(第 2 次) 策定		